

平成29年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、志望する国公立大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① 生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満 【判定C】	前期授業評価において、5項目におけるA評価の平均は46%であった。内訳は、「ねらい」50%、「熱意や工夫」51%、「説明や指示」46%、「考えさせる場面」53%、「興味・関心」31%である。「興味・関心」の評価が低く、改善を要する。2学期以降はいかに生徒の学習意欲を高めるかに留意し、授業改善に努めたい。
	② 授業や総合的な学習の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ア) 授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ) 授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ) 授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ) その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定A】	生徒対象の前期学校評価アンケートにおいて、3教科の肯定的な回答の平均は60%（英語62%、数学65%、国語54%）であった。受験に対応する力をつけるためには授業や課題にしっかり取り組むことは当然であるが、1、2年生のうちから自らの弱点を克服する基本的な学習や得意分野をさらに伸ばす発展的な学習、3年生の志望大学の入試動向を踏まえた自主的な学習が求められる。より多くの生徒が自分の学習スタイルはどうあるべきかを考え、主体的に学習に取り組むよう、生徒の自覚を促していきたい。
		家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生の割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定B】	7月末現在で、1・2年生で目標値（1年2時間以上、2年3時間以上）に達している生徒は57%（1年76%、2年37%）であった。授業内容を工夫し、興味・関心を高めることで家庭学習時間をさらに延ばすことも可能であり、授業改善及び適正量で内容の濃い課題の提示に努めていく必要がある。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	1年次12月に受検したGTECの本校平均スコアに比べ、1年後の2年次12月に受検するGTECの本校平均スコアの伸びが、 A 60点以上 B 50点以上 C 40点以上 D 40点未満 【評価未定】	12月のGTECの結果で集計する。
	④ 高い志を持って進路達成に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	合格者数が A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず ※ア（難関大10名以上）、イ（金沢大60名以上）、ウ（国公立大180名以上） 【評価未定】	合格実績で集計する。 3年生が7月に受験した校外模試における難関大合格レベルを仮に偏差値68以上、金沢大学合格レベルを60以上、国公立大学合格レベルを53以上とすると、それぞれの達成人数は12名、71名、187名であった。2学期以降もしっかりと目標を見据えながら、粘り強く学習させる必要がある。
⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。	週1日以上休養日を設定している部活動が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 【判定A】	部活動顧問に対してアンケート調査を行った結果、運動部21部、文化部13部のすべての部活動で週1回以上の休養日を設定していた。しかし、大会直前に休業日が練習にあてられる場合もあり、完全実施とはいかないが、生徒の健康面を考慮し、学習時間の確保に向けて今後も遵守していきたい。	
	下校時刻を遵守している生徒が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 【判定D】	生徒対象の前期学校評価アンケートにおいて、遵守している生徒は78%（「よくあてはまる」が53%、「ほぼあてはまる」が25%）であった。文武両道を実践していくために、時間のけじめをつけることは重要であり、2学期以降、徹底していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・前年に比べ、目標設定や達成度判断基準において改善に向けての積極性を感じる。 ・授業評価において、A評価の割合で判断するのはよいが、B評価も肯定的評価として捉えてもよいのではないかと。 ・生徒のやる気を引き出す指導をさらに工夫してほしい。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価におけるA評価がさらに増えるように、特に、生徒の興味・関心を高められるような授業を追求していく。 ・4月当初に全教員が授業評価に対する目標を設定したが、今後も学校全体で授業改善に努めていく。 		

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等
2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識など人としての基本を身に付けた、心身ともに逞しい生徒を育てる。	① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に挨拶をしている ・きちんとした頭髪・服装をしている この2つの点について (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない (ア)の%が A 40%以上 B 35%以上 C 30%以上 D 30%未満 【判定D】	生徒、保護者、教員対象の前期学校評価アンケートの結果、平均は21%であり、内訳は、生徒36%、保護者25%、教員3%であった。特に教員の評価が低いが、教員の「ほぼあてはまる」との回答が80%を占めており、今後は自信を持って「あてはまる」と回答できるよう、生徒指導に関する共通理解をもって生徒の指導にあたっていきたい。
	② 交通安全教室、自転車マナー・ルール検定、街頭指導等を通して交通ルール遵守の指導を行う。	生徒は、自転車に乗車するときは交通ルールを (ア) いつも守っている (イ) だいたい守っている (ウ) あまり守っていない (エ) ほとんど守っていない (ア)の%が A 60%以上 B 55%以上 C 50%以上 D 50%未満 【判定D】	生徒対象の前期学校評価アンケートにおいて、「いつも守っている」との回答は46%であった。「だいたい守っている」と回答した生徒も42%と多く、これらの生徒も含めて全員が、交通ルールの遵守が命に関わるということ意識し、しっかり守るように、指導を継続したい。東金沢駅から本校までの主な交差点に生徒・教職員が立ち、自転車マナー等の指導を行うヤングイーグル隊の活動等とおして、生徒が交通ルールを遵守しようとする態度を身に付けるよう、啓発に努めていく。
	③ 生徒の健全な心を育み、一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる、明るくさわやかな校風の樹立をさらに進める。	本校は学習における悩みや人間関係（いじめ等）に関する悩みを相談しやすい (ア) よくあてはまる (イ) ほぼあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 【判定D】	生徒対象の前期学校評価アンケートにおいて、「わからない」という回答が29%と多く、相談することを考えたことがない生徒はこの回答になったと考えられる。そこでこの「わからない」という回答を除き、(ア)～(エ)の有効回答における割合を求めたところ、「よくあてはまる」は25%（「わからない」を含めると18%）、「ほぼあてはまる」は44%（「わからない」を含めると31%）で、計69%が肯定的な回答をしている。それでも評価は判定Dであり、2学期以降は週2日來校するスクール・カウンセラーの力を借りながら、相談しやすい環境作りをさらに進めていきたい。
	④ 生徒面談シートを活用し、PDC Aサイクルを意識させた面談を行い、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。	1・2年生において、家庭でのスマートフォン使用時間が1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満 【判定D】	生徒対象の前期学校評価アンケートにおいて、使用時間が1時間以内という生徒は38%（1・2年それぞれ、30分以内が7%、5%、30分～60分が34%、30%）であった。文武両道の校是のもと、二兎を追う状況で、スマートフォンに時間をかけるとどちらも中途半端になることをあらためて面談等で訴えかけ、効率的に進学校の高校生らしい利用方法を追求させたい。
	⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。	年間貸出冊数が A 1500冊以上 B 1250冊以上 C 1000冊以上 D 1000冊未満 【評価未定】	3月に最終集計を行うが、4月から7月末までの図書館貸出冊数はのべ926冊であり、昨年度は3月末で1232冊であったことを考えると、増加も見込まれる。但し、例年、2学期以降に貸し出しのペースが落ち込んでおり、気を抜くことなく生徒に対するPRを続けていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に挨拶についての評価が生徒、保護者、教員の順に低くなるのは、教員が満足していないことの証である。特に教員が率先して挨拶をしていくことが大切である。 ・悩みに関する相談のしやすさについて、「わからない」と回答した生徒の中には、相談の必要性を感じていない生徒とともに「言いたくない」という生徒がいる可能性もあるので、そのことを念頭に置いて相談しやすい学校づくりに努めてほしい。 ・下校時刻の厳守やスマートフォンの利用に関する指導は重要である。今後も指導を継続してほしい。 		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶等についての指導を今後も事ある毎に行うと同時に、悩みに関して相談しやすい環境を今後も追求していく。 ・11月の教育ウィーク期間中に生徒・保護者・教員・同窓生によるパネルディスカッションを行うことを検討している。本音で語り合い、立場の異なる人の考えに生徒が接し、視野を広げる機会としたい。 		

重点目標	具体的取組	現状の達成度判断基準	分析（成果と課題）及び改善策等
<p>3 校是「文武両道」を実践するため、教員自らが資質向上に励み、生徒の主体性、自己肯定感を高め、明るく活気があり、地域から信頼される学校づくりに努める。</p>	<p>① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。</p>	<p>いしかわニュースーパーハイスクールとして (ア) 共通理解があり、しっかりと学校運営がなされている (イ) ある程度共通理解があり、学校運営がなされている (ウ) あまり共通理解がない状態で学校運営がなされている (エ) 共通理解がない状態で学校運営がなされている</p> <p>(ア)の%が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満</p> <p style="text-align: right;">【判定C】</p>	<p>教員対象の前期学校評価アンケートにおいて、「共通理解があり、しっかりと学校運営がなされている」との回答は23%であった。「ある程度共通理解がある」との回答が最も多く、68%であったが、教職員の共通理解のために何が欠けているのかを考え、2学期に向けて改善していきたい。</p>
	<p>② 校内研修会をより充実させ、今日的教育課題の理解とそれに対応する教員の資質を高めるとともに若手教員の早期育成を目的とした研修を行う。</p>	<p>取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない</p> <p>(ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p> <p style="text-align: right;">【判定A】</p>	<p>教員対象の前期学校評価アンケートにおいて、「よくあてはまる」「ほぼあてはまる」の合計は91%であり、内訳はそれぞれ26%、65%であった。校内研修としては5月に発達障害、7月に救急救命及びAEDに関する内容を扱った。今後も日々の教育活動に役立つ内容の研修を行うとともに、OJTを意識した、教育実践の中での随時の研修を充実させていきたい。</p>
	<p>③ 部活動の活性化を通して、競技力や技能の向上に努めるとともに、生徒の自主性や自立心の育成を図る。</p>	<p>北信越大会以上の大会に参加した部活動が A 15以上 B 12以上 C 10以上 D 10未満</p> <p style="text-align: right;">【評価未定】</p>	<p>8月の全国総体及び全国総文を含め、本年度に入り、北信越大会以上の大会に参加した部活動は運動部9（卓球、男子テニス、陸上競技、柔道、剣道、空手道、弓道、水泳、ラグビー）、文化部4（吹奏楽、文芸、放送、新聞）、合計13である。北信越大会出場は逃したが、県ベスト8の部活動も多く、また、箏曲部のように来年度の全国総文の出場権を獲得した部もあり、全体として部活動が活発に行われていると考える。今後も文武両道を校是とし、部活動面でも結果が残せるようにするため、生徒が活動に短時間でも集中して取り組める環境をさらに整備していきたい。</p>
	<p>④ 保護者が本校の教育活動に参加する機会を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭と学校との連携を更に深める。</p>	<p>本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満</p> <p>行事 PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式</p> <p style="text-align: right;">【評価未定】</p> <hr/> <p>年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 20万件以上 B 18万件以上 C 16万件以上 D 16万件未満</p> <p style="text-align: right;">【評価未定】</p>	<p>最終的な評価は3月に行う。5月のPTA総会及び学年別懇談会には512名、7月の1年保護者進路説明会には248名の保護者の方に来校いただいた。今後も学校行事の充実を図るとともに、学年便りやメール配信等を利用して行事に関する保護者への周知を図りたい。</p> <p>4月から7月末までの本校ホームページへのアクセス数は86166件であった。今後も保護者の方や地域の方にタイムリーで充実した内容の情報を提供できるように心がけたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>・「社会人と語る会」等において、社会との接点を持つとしている点は評価できる。 ・桜高祭で昭和24年の桜高新聞をみたが、当時の生徒たちの自主性、主体性を強く感じた。生徒の主体性を育むことが重要である。</p>		
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>・11月に実施予定の「大学卒業後を見据えた地元企業説明会」も本年度は対象を1・2年生に拡大し、社会や企業が求める前向きで、主体的に行動できる生徒の育成に今後も努める。 ・昭和24年の桜高新聞等を校内に掲示し、同窓生が自主性、主体性をもって桜丘の校風を築いてきたことを生徒に知らせる。</p>		